

ウラギンシジミ

本州・四国・九州・南西諸島の各地に広く分布します。
通常5～11月にかけて年2回発生し、成虫で越冬します。平地・低山地の溪流沿いの食草の自生する地域に多いです。

飛び方は、とても早く直線的です。

成虫は、カキやアケビなどの落果、動物の死体や汚物に好んで集まり、花を訪れることはまれで、クリ・ハギで吸蜜しているものが知られるのみです。クヌギの樹液やアブラムシの分泌物に飛来することもあります。

幼虫の食草は、マメ科のフジ、ヤマフジ、クズ、クララ、ミヤギノハギ、ヤマハギなどの蕾、実、新芽などを食べます。

幼虫の尻には一対の特異な長い筒状の伸縮突起があり、外部から刺激を受けると、そこから基部が紅紫色で、先端が白い毛筆状の長毛をすごいスピードで出し入れします。



富士市での現状

クズなど食草が自生している所なら、標高の低い海岸沿い（田子地区、元吉原地区）から、平地（須津地区など）を經由して、低山地（大淵地区など）でも普通に見られます。旧富士川町では、フジやクズなどの食草の多く自生する血流川や有無瀬川沿いで、普通に見られます。

ウラギンシジミを確認したメッシュ

